

番号	事業名	県営農村地域防災減災(ため池整備)	市町村名	茅野市	路河川名	—	箇所名(ふりがな)	須栗平(すぐりだいら)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○須栗平ため池は、昭和21年に築造され、20.5haの水田を潤す、貯水量14,500m3のため池である。しかし、築造から60年以上が経過したため、老朽化による堤体法尻からの漏水や堤体断面の変形が生じ、決壊の危険性が危惧されていた。また、取水施設が緊急放流できない状態となっていた。</p> <p>○ため池が決壊した場合、下流の農地だけでなく、多くの人家にも被害が及ぶことから、早急な改修が必要となっていた。</p> <p>○事業開始前には、受益者67名に改修概要等を説明し、事業費の8%を負担することの同意を得ている。</p>				②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価	
	<p>○ため池の安全性が確保されたため、下流域で安心して営農活動に取り組めるようになった。</p> <p>○波除護岸を自然石張とし、自然環境・景観の向上を図ったことにより、茅野市が、隣接の公園駐車場、園路、親水水路等の整備を積極的に行い、公園の価値が向上した。</p> <p>○堤体盛土において、従前の表土で復旧したことにより、以前の植生が復元され、環境保全が図られた。</p> <p>○ため池を含む一帯が地域の憩いの場となったため、公園管理者の茅野市及び地元須栗平区では、来園者が増えたと実感している。</p>					A			
事業目的	<p>○本ため池は、堤体法尻からの漏水が著しい上、堤体断面の変形、緊急放流時の機能不足、洪水吐側壁の損傷が発生していた。そこで、前刃金工法による漏水防止と併せ、堤体盛土及び波除護岸による堤体改修、緊急放流に対応可能な取水施設の改修、損傷している洪水吐の改修を計画した。</p> <p>○波除護岸工の改修に当たっては、ため池が、岳麓公園に隣接しているため、自然石を使用し景観に配慮した。</p> <p>○ため池を総合的に整備し、災害の未然防止、農業用水の安定供給、維持管理労力の軽減等を図ることにより、地域の防災安全度の向上と農業生産の維持及び農業経営の安定に資することを目的としている。</p>				③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人の参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価	
	<p>○取水施設のゲート操作が容易となり、維持管理は須栗平区が実施している。</p> <p>○事業着手前から多面的機能支払事業に取り組んでおり、地域住民が定期的な点検、見廻りを実施するとともに、ため池の草刈りは、非農家も含め地域ぐるみで実施している。</p>					A			
事業概要	当初工期	H21~H23	費用対効果(当初時)	7.4	事業費(千円)		財源内訳(千円)		
	最終工期	H21~H23	費用対効果(評価時)	7.4	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源
	当初計画内容(主な工種)	ため池改修工 N=1箇所(堤体工、波除護岸工、取水施設工、洪水吐工)			110,000	55,000	38,500	14,000	2,500
最終事業実績(主な工種)	ため池改修工 N=1箇所(堤体工、波除護岸工、取水施設工、洪水吐工)			99,500	49,750	34,825	13,000	1,925	
事業期間の延長、短縮理由と分析	○当初の計画工期どおり実施した。				④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	○入札差金による減額が生じた。					改善措置の必要性		○なし	A
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)				評価	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	○ため池の改修については、地震防災上の観点からも事業に対する地域住民の関心が高い。今後も適切に維持管理を行い、農業を継続する上での重要施設として保全を図っていく必要がある。		
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○堤体において、前刃金工(漏水防止)、堤体盛土工、波除護岸工を実施したことにより、ため池の安全性が確保され、住民の不安もなくなった。</p> <p>○漏水を防止したことにより、農業用水が安定的に供給できるようになった。</p> <p>○取水施設を開度付きスライドゲートに改修したことにより、地震発生時等の緊急放流が可能となり、更にゲート操作が簡単になった。</p> <p>○損傷していた洪水吐を改修したことにより、豪雨時の堤体の安全が確保された。</p>			A		○ため池は、農業用施設であると同時に、地域住民の憩いの場となっていることが多い。また、観光施設としての位置付けもあり、事業執行に当たっては、景観の保全等、環境との調和に配慮した計画とする必要がある。		
	間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	<p>○波除護岸を自然石張とし、景観を保全したことにより、隣接する岳麓公園の整備が促進された。そのため、ため池を含めた公園全体の価値が向上し、公園利用者が増加した。(関係者からの聞き取り)</p> <p>○堤体法面の傾斜が緩やかになったため、草刈り作業がしやすくなった。また、波除護岸が自然石張になったため、ため池への不慮の転落事故の際にも脱出しやすく、安全性が向上した。</p> <p>○ため池から取水している用水は、防火用水としても利用されているが、取水施設が更新され、冬期でもゲート操作が容易になったことにより、安定して防火用水が確保でき、防災効果が向上した。</p>					部局意見	ため池改修による災害防止、用水の安定供給、維持管理労力の軽減といった本来の事業目的が達成されている。また、地域住民への憩いの場の提供につながっており、地域住民からの評価も高いことから、事業効果は十分に発揮されている。	
					技術管理室意見	農業用水の安定供給と災害の未然防止が図られ、事業の目的を達成している。			
					県の自己評価	事業目的を達成			